

返していると考えることができる。隆起帯には海岸段丘が形成され、沈降域にはリアス式海岸が形成されている。この結果は、室戸岬の隆起は南北方向の構造に支配されていることを示唆している。さらに、このような褶曲構造を形成した力は東西圧縮であると推定され、フィリピン海プレートの南東からの沈み込みだけでは説明できない。

以上示してきたことは、室戸岬の隆起が内陸と同様なプレート内の断層運動と同様な周期で起きていることを意味しており、南海トラフに沿って起きた地震と直接には関係していないことをうかがわせる。それでは、室戸岬の隆起はどの断層が動いて形成されたのであろうか？

比較岬学

日本列島のまわりはすべて海である。当然、周囲は海岸に取り囲まれているのである。日本列島を囲む海岸線を見てみると、実に多様なものである。美しい弧状を呈する単調な砂浜から、複雑に入り組んだリアス式海岸までが、一見何も規則性がないように、日本列島をふちどっている。そして、相対的に突出し



写真1-3
室戸岬のランド
サット画像
©RESTEC

ているところが半島で、その先端が岬と呼ばれている。これらの海岸線は大部分が約12万年前の最終間氷期最盛期以降、隆起しているのである。そして、すでに述べたように、北海道南西沖地震で被害を受けた奥尻島も隆起した海岸をもっていたのであった。したがって、これら海岸線の隆起と海底で起きる地震の関係がわかれば、今後の地震予知に大変役立つことが予想される。太平洋側にもたくさん岬が飛び出ており、その形もさまざまである。

これまで話題にしてきた室戸岬は、太平洋にV字状に突き出している。このようなV字形をした岬がないか日本地図を広げて太平洋側をよく見てみる。すると、室戸岬のほかに、太平洋に飛び出したV字形の岬が4つ認められるのである。北から、北海道の襟裳岬、下北半島の尻屋崎、銚子の犬吠埼、静岡の御前崎である。さらに、形だけでなく岬の地形をみると、犬吠埼が両側に広く長い砂浜をいただき、岬の中央部に高まりをもたないことから、他の岬とかなり異なっている。今度は日本海側の岬をみると、このような形の岬は1つも認められないことがわかる。それでは、世界中にはこのようなV字形の岬があるかどうかをみるために、世界地図を広げてみる。すべてを詳しく検討したわけではないが、室戸岬や襟裳岬と同じような規模でV字形をした岬はほとんど認められない。写真1-3に室戸岬、写真1-4に襟裳岬を含む半島のラン

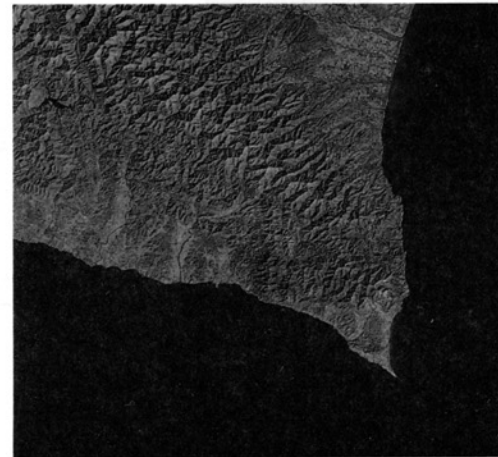


写真1-4
襟裳岬のランド
サット画像
©RESTEC